

授業科目名： 作業療法学特論 Specialized research in occupational therapy, C	履修年次： 選択：作4年	1単位通年 コード：ROP309	担当教員名： 科目責任者 有川 真弓(研究室： 仁戸名研究棟4)
実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕			
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順について作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる			
〔授業の概要〕			
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「感覚統合療法の効果について」、「特別支援教育における作業療法」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。			
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ			
〔授業計画〕			
回数	テーマ・内容		
第1回	テーマ：「感覚統合療法の効果について」、「特別支援教育における作業療法」		
第2回	内容：		
第3回	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む		
第4回	1) 学生は、研究テーマを述べることができる。		
第5回	2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。		
第6回	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受けることとする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間として15時間を確保することとする。）		
第7回	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。		
第8回	1) 学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるができる。		
	2) 学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べるができる。		
	2) 学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるができる。		
	3) 学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べるができる。		
	4) 学生は卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。		
	5) 学生は卒業研究論文の執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べることができる。		
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。		
予習・復習	受講する担当教員の指示に適宜従うこと。		
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。		
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。		
学生に対する評価	レポート課題（60%）、学習態度（40%）、テスト（20%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）		

授業科目名： 作業療法学特論 Specialized research in occupational therapy, <u>D</u>	履修年次：	1 単位通年	担当教員名： 松尾真輔 (研究室 6)、(作業療法士)
	選択：作 4 年	コード：ROP312 <u>D</u>	
		実務経験のある教員による授業科目	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕			
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にて作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる			
〔授業の概要〕			
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「生活行為向上マネジメントについて・作業療法教育について」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。			
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ			
〔授業計画〕			
回数	日付	テーマ・内容	
第1回	適宜指示	テーマ：「生活行為向上マネジメントについて・作業療法教育について」	
第2回	〃	内容： 1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べるができる。 2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。	
第3回	〃	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受ける事とする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。）	
第4回	〃	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。	
第5回	〃	1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるができる。	
第6回	〃	2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験，調査等の準備を述べるができる。	
第7回	〃	2) 各自学生は計画した実験，調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるができる。	
第8回	〃	3) 各自学生は実験，調査等データの解析と解釈について、根拠を述べるができる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成，投稿の準備について述べるができる。	
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。		
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。		
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。		
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。		
学生に対する評価	レポート課題（50%），学習態度（30%），テスト（20%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）		



授業科目名： 作業療法学特論F Specialized research in occupational therapy, F	履修年次： 選択：作4年	1単位通年 コード：ROP312 F	担当教員名： 成田悠哉（研究室3） （作業療法士）
実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕			
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にいて作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる			
〔授業の概要〕			
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「 <u>地域コミュニティの促進・高齢者介護予防、回復期の作業療法</u> 」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。			
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ			
〔授業計画〕			
回数	日付	テーマ・内容	
第1回	適宜指示	テーマ：「 <u>地域コミュニティの促進・高齢者介護予防、回復期の作業療法</u> 」 内容：	
第2回	〃	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べるができる。	
第3回	〃	2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。	
第4回	〃	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受ける事とする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。）	
第5回	〃	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるができる。	
第6回	〃	2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験，調査等の準備を述べるができる。	
第7回	〃	2) 各自学生は計画した実験，調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるができる。	
第8回	〃	3) 各自学生は実験，調査等データの解析と解釈について、根拠を述べることができる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成，投稿の準備について述べるができる。	
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。		
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。		
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。		
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。		
学生に対する評価	レポート課題（60%）、学習態度（40%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）		

授業 科目名	臨床体験実習 (Experience-based Fieldwork)	履修年次: 必修: 作1年	単位数: 1単位 45時間	担当教員名:科目責任者 成 田悠哉 (研究室 3), 岡村太 郎, 藤田佳男, 有川真弓, 松 尾真輔, 須藤崇行, 清水大輝 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目	コード: ROF101	
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナルリズム II コミュニケーション能力 VII 生涯にわたる探 究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士を目指すべき者として, 臨床現場での作業療法の対象や作業療法士の役割を学ぶ。 作業療法士が所属する施設の特徴や対象, 組織的位置づけと役割を理解する。 施設での作業療法の対象と作業療法士の役割, 職業倫理を理解する。				
〔授業の概要〕 作業療法士としてふさわしい資質と動機付けを, 入学早期から維持向上させるために, 作業療法士が働 く臨床実践現場を体験する。臨床実践現場における実習形式により, 作業療法の対象領域, 作業療法士 のかかわり方とその手法等に接することで, 学習意欲の向上と作業療法士となるにあたっての課題を自 覚する。				
キーワード: 臨床見学, 作業療法士の役割, 作業療法士の対象, 職業倫理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	6/11	オリエンテーション		
第2回	6/18	臨床体験実習 1	作業療法士が勤務する施設で1日の臨床現場の 流れを体験し, 作業療法の提供される場面, 作業 療法士の接し方を学ぶ。各学生は, 原則以下の領 域別の異なる5施設で体験学習を行う。 1. 身体障害領域 2. 精神障害領域 3. 発達障害領域 4. 老年期障害領域	
第3回	6/25	臨床体験実習 2		
第4回	7/2	臨床体験実習 3		
第5回	7/9	臨床体験実習 4		
第6回	7/16	臨床体験実習 5		
第7回	7/25 or 7/30	報告会		
履修条件		オリエンテーションへの参加 (※4~6月にかけてオリエンテーションを 開催する)		
予習・復習		実習施設の概要を事前に把握し, 実習にて得た情報を各自まとめる。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		なし		
学生に対する評価		臨床実習指導者と担当教員により総合的に評価。 1. 参加態度 50% 2. 各回の事前準備と事後レポート 25% 3. 報告会の発表内容 25% ※日程は別途連絡		

授業科目名： 評価実習 I (Clinical Practice I)	必修科目	単位数： 4 単位 180 時間	担当教員名：松尾真輔 (研究室：研究棟 6) 岡村太郎、藤田佳男、有川真弓、須藤崇行、成田悠哉、清水大輝 (全員作業療法士)
		コード：ROF301	
実務経験のある教員による授業科目			
<p>[授業の到達目標及びテーマ]</p> <p>作業療法では、評価に始まり評価に終わる、といわれることが多い。近年の早期退院傾向において顕著なトップダウン、及び古典的なボトムアップの双方の観点を踏まえながら、学生としてできる範囲で、作業療法における主訴の把握、あるいは全体像の理解を通しての問題点抽出に重点を置いて実習する。</p> <p>作業療法の治療実践において重要な評価法について、その時期、結果の表記、結果の統合などの基本的な知識と技術に関して臨床実習指導者のもとで模倣学習を行った後、学内にて総括する。</p>			
<p>[授業の概要]</p> <p>本科目では、これまでに学内の講義、及び実習で得た知識と技術を踏まえて、臨床現場において臨床実習指導者のもとで作業療法を体験する。主として千葉県内の医療・保健施設において3週間の実習を行った前後、学内において実習の準備とフィードバックのための報告会を実施する。作業療法の領域としては以下の4つを想定している。</p> <p>①身体障害領域、 ②精神障害領域、 ③発達障害領域 ④老年期障害領域</p>			
キーワード：トップダウン、ボトムアップ、評価計画、記録、報告			
[授業計画]			
回数	テーマ	内 容	
実習準備 8/25～8/29	評価の練習 (OSCE 8/19 予定)	臨床場面での作業療法において、以下の2つの観点での評価の目的と方法、及び記録と報告について学ぶ。	
評価実習 I 9/8～9/27	臨床場面における作業療法評価の実際	トップダウンの場合、作業療法に対する主訴の把握、阻害要因の理解、問題点の解決方法まで。 ボトムアップの場合、全体像の把握から評価計画の立案、問題点の抽出、統合と解釈、作業療法の治療計画の立案まで。	
学内実習 9/29～10/2	臨床作業療法における評価の再確認	各々の領域における臨床実習で得られた体験学習について、学内においてフィードバックを行い、主として、作業療法における評価に関する知識と技術を再確認する。	
履修条件	特になし。		
予習・復習	各分野に関わる講義資料を整理し、評価実習に臨み、評価実習後は関係書類をまとめることで情報を整理すること。6月以降臨床実習に向けたオリエンテーションや実習準備で日程調整があるため、予定は確認すること。		
テキスト	特になし。		
参考書・参考資料等	本専攻作成「臨床実習の手びき」の他は、各々の臨床実習施設において適宜紹介されたものを用いる。		
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況(4/5以上)</li> <li>2. 大学の課題内容(40%)</li> <li>3. 臨床実習指導者の成績評価(40%)</li> <li>4. 実習終了後の報告会の発表内容(20%)</li> <li>5. 全体を通じ実習への取り組み(+α)</li> </ol> <p>以上を総合評価し、大学が単位認定する。</p>		

授業科目名： 評価実習Ⅱ (Clinical Practice II)	必修科目	単位数： 4単位 180時間	担当教員名：松尾真輔 (研究室：研究棟6) 岡村太郎、藤田佳男、有川真弓、須藤崇行、成田悠哉、清水大輝 (全員作業療法士)
		コード：ROF302	
実務経験のある教員による授業科目			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法では、評価に始まり評価に終わる、といわれることが多い。近年の早期退院傾向において顕著なトップダウン、及び古典的なボトムアップの双方の観点を踏まえながら、学生としてできる範囲で、作業療法における主訴の把握、あるいは全体像の理解を通しての問題点抽出に重点を置いて実習する。 作業療法の治療実践において重要な評価法について、その時期、結果の表記、結果の統合などの基本的な知識と技術に関して臨床実習指導者のもとで模倣学習を行った後、学内にて総括する。			
〔授業の概要〕 本科目では、これまでに学内の講義、及び実習で得た知識と技術を踏まえて、臨床現場において臨床実習指導者のもとで作業療法を体験する。主として千葉県内の医療・保健施設において3週間の実習を行った後、学内においてフィードバックのためのセミナーを実施する。作業療法の領域としては以下の4つを想定している。①身体障害領域、②精神障害領域、③発達障害領域 ④老年期障害領域			
キーワード：トップダウン、ボトムアップ、評価計画、記録、報告			
〔授業計画〕			
回数	テーマ	内 容	
実習準備 10/3	評価の練習	臨床場面での作業療法において、以下の2つの観点での評価の目的と方法、及び記録と報告について学ぶ。	
評価実習Ⅱ 10/6～10/25	臨床場面における作業療法評価の実際	トップダウンの場合、作業療法に対する主訴の把握、阻害要因の理解、問題点の解決方法まで。 ボトムアップの場合、全体像の把握から評価計画の立案、問題点の抽出、統合と解釈、作業療法の治療計画の立案まで。	
学内実習 10/27～10/30	臨床作業療法における評価の再確認	各々の領域における臨床実習で得られた体験学習について、学内においてフィードバックを行い、主として、作業療法における評価に関する知識と技術を再確認する。	
履修条件	特になし。		
予習・復習	各分野に関わる講義資料を整理し、評価実習に臨み、評価実習後は関係書類をまとめることで情報を整理すること。		
テキスト	特になし。		
参考書・参考資料等	本専攻作成「臨床実習の手びき」の他は、各々の臨床実習施設において適宜紹介されたものを用いる。		
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況(4/5以上)</li> <li>2. 大学の課題内容(40%)</li> <li>3. 臨床実習指導者の成績評価(40%)</li> <li>4. 実習終了後の報告会の発表内容(20%)</li> <li>5. 全体を通じ実習への取り組み(+α)</li> </ol> 以上を総合評価し、大学が単位認定する。		

授業科目名	授業科目名： 総合実習 I Total clinical fieldwork I	履修年次： 必修:作3年	単位数： 8単位 360時間 コード：ROF401	担当教員名：科目責任者 有川真弓（研究室：仁戸名研究棟4）、岡村太郎、藤田佳男、松尾真輔、須藤崇行、成田悠哉、清水大輝[作業療法士]
〔DP〕 IV. 健康づくりの実践, I. 倫理観とプロフェッショナリズム, II. コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法の評価の立案から作業療法の実施という治療・指導・援助の一連の流れを学ぶ。また、各々の臨床領域における実習体験から、様々な病期・障害に対する作業療法を統合して理解する。				
〔授業の概要〕 臨床実習指導者の指導の下、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助を通じて、作業療法士としての知識と技術・技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 自ら進んで行動して考えるという卒業後の作業療法士としてのなすべき行動を身につける、また卒業時点で習得されるべき知識と技術の内容を着実に理解する。				
キーワード：作業療法評価の実施、治療計画の立案、作業療法プログラムの実施、再評価の実施				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
実習準備	12月中	学内における事前学習, OSCE	オリエンテーション、事前準備 実習前学生評価 (OSCE)	全教員
総合実習 I	1/19～3/7	実習施設における学外実習	作業療法士が勤務する身体障害領域、精神障害領域、老年期障害領域、発達障害領域のいずれかの施設で臨床実習を行う。臨床実習指導者のデモンストレーションやクリニカル・リーズニングの提示等の指導の下、自ら主体的に作業療法の治療・指導・援助を実施する。	全教員
学内実習	3/9～3/13	学内における事後学習	事例報告書の作成、事例報告会の参加、 実習フィードバック	全教員
履修条件	なし			
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習として臨床実習の手引きを熟読のこと。</li> <li>上記以外の日程においても、総合実習に関するオリエンテーションや実習に向けた準備があるため、適宜予定の確認をすること。</li> </ul>			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	臨床実習の手引き			
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>出席状況 (4/5 以上)</li> <li>大学の課題内容 (40%)</li> <li>臨床実習指導者の成績評価 (40%)</li> <li>事例報告会の発表内容 (20%)</li> <li>全体を通じ実習への取り組み (+ α)</li> </ol>			



授業 科目名	授業科目名： 総合実習Ⅱ Total clinical fieldwork Ⅱ	履修年次：	単位数：	担当教員名：科目責任者 有川真弓(研究室：仁戸名 研究棟4)，岡村太郎，藤 田佳男，松尾真輔，須藤崇 行，成田悠哉，清水大輝作 業療法士]
		履修年次： 必修：作4年	8単位 360時間 コード：ROF402	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP]Ⅳ.健康づくりの実践、Ⅰ.倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅱ.コミュニケーション能力				
[授業の到達目標及びテーマ] 作業療法の評価の立案から作業療法の実施という治療・指導・援助の一連の流れを学ぶ。また、各々の臨床領域における実習体験から、様々な病期・障害に対する作業療法を統合して理解する。				
[授業の概要] 臨床実習指導者の指導の下、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助を通じて、作業療法士としての知識と技術・技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 自ら進んで行動して考えるという卒業後の作業療法士としてのなすべき行動を身につける、また卒業時点で習得されるべき知識と技術の内容を着実に理解する。				
キーワード：作業療法評価の実施、治療計画の立案、作業療法プログラムの実施、再評価の実施				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	3/23～3/27	学内における事前学習	オリエンテーション 事前準備	全教員
第2回	4/13～5/30	実習施設における学外実習	作業療法士が勤務する身体障害領域、精神障害領域、老年期障害領域、発達障害領域のいずれかの施設で臨床実習を行う。臨床実習指導者のデモンストレーションやクリニカル・リーズニングの提示等の指導の下、自ら主体的に作業療法の治療・指導・援助を実施する。	全教員
第3回	6/1～6/4	学内における事後学習	事例報告会 事例報告書の作成	全教員
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として臨床実習の手引きを熟読のこと。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	臨床実習の手引き			
学生に対する評価	1.出席状況(4/5以上) 2.大学の課題内容(40%) 3.臨床実習指導者の成績評価(40%) 4.事例報告会の発表内容(20%) 5.全体を通じ実習への取り組み(+α)			

授業 科目名	地域作業療法学実習 Fieldwork for Community- based Occupational Therapy	履修年次:	単位数:	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名 研究室 5) 岡村太郎、有川真 弓、松尾真輔、須藤崇行、成田 悠哉、清水大輝[作業療法士]
		必修: 作業 4 年	3 単位 135 時間	
		実務経験のある教員による授業 科目	コード: ROF403	
〔DP〕 IV 健康づくりの実践 VI 多職種との協働 V 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法が展開されている地域や施設などの概要を知り、支援体制を説明することができる。</li> <li>2. 実習施設と地域との関係を知り、地域のネットワークの観点から説明することができる。</li> <li>3. 地域で展開されている作業療法支援について学び、生活者としての対象者支援について説明することができる。</li> <li>4. 全体的な学びから、地域作業療法の今後の課題と可能性について説明することができる。</li> </ol>				
〔授業の概要〕				
<p>在宅生活など、住み慣れた地域で安全・安心に対象者が生活できるような作業療法支援について、これまで学んできた講義・演習・実習の内容を、学外実習施設で作業療法士の指導のもとに体験をする。</p> <p>本科目は、実践現場における実習形式により、保健や福祉、保健政策に関わる内容など幅広い作業療法の職域で作業療法士の活動を経験することを目的とする。担当教員の病院および施設での実務経験により学習の支援を行う。</p>				
キーワード: 地域、在宅支援、連携、ネットワーク、生活				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		
第 1 セッション 6/19～6/20	・オリエン テーション ・学内事前 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修の準備、実習に関する注意事項</li> <li>・学内で、事前に実習に関連した学習してきた内容を整理し、実習施設や地域の情報収集を行う。</li> </ul>		
第 2 セッション 6/23～7/6	・実習施設 における学 外実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における作業療法士が働く職場で、そこで提供される作業療法支援について見学および体験をする。</li> </ul>		
第 3 セッション 7/7～7/11	・学内事後 学習 (実習の 振り返り) ・成果発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で得た情報、見学や体験してきた内容をまとめながら、振り返りを行う。</li> <li>・一連の授業内容を通じての経過と考察を整理し、報告会で発表する。</li> </ul>		
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として実習の手引きを用い、復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	「地域作業療法学実習の手引き」 その他資料を配布、参考図書を紹介する			
学生に対する評価	学外実習の記録および態度 50%、学内実習の状況 20%、課題 30% (成果報告会、最終報告書, その他課題) であるが、問題とされる事象があれば減点する			

授業 科目名	卒業研究 Graduation Research	履修年次：	単位数：1単位	担当教員名：[全員作業療法士] 科目責任者 岡村 太郎（研究室：仁戸名研究棟8）藤田 有川、松尾、須藤、成田（清水）
		必修：作4年	コード：ROR401	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III 実践に必要な知識IV 健康づくりの実践VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
[授業の到達目標及びテーマ] (1) 研究計画の目標が立てられる (2) 研究計画に基づいた研究ができ、その成果物として論文の提出ができる (3) 卒業研究について発表ができる (4) 提出した論文を卒業論文集として編集作業に加わることができる				
[授業の概要] 作業療法に必要な研究について、基本的な手法などの一連の流れを基にして、論文のまとめ、及び発表形式を体験する。本科目は、担当教員から研究計画－研究の実施－研究のまとめについて指導を受ける演習・実習に準じた形式により、学生各自の問題・課題の意識を動機付けにした積極的な取り組みにより促進を図る。 キーワード：卒業研究、研究発表、論文執筆、研究				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/2	オリエンテーション	演習の進め方、注意事項に関する説明	岡村
総合実習中				
第2回	7/8～ 8/8	1. 卒業論文主担当教員・副担当教員について 1) 学生は研究方法論で各指導教員の研究テーマ等聴講の上、主担当教員を希望することができるが、研究テーマ等により、主担当教員・副担当教員を決定する。 2) 卒業研究の指導は、主担当教員が主に実施する。副担当教員には、随時、研究が円滑に進められるよう助言・相談ができる。 3) 各学生は研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）を、主担当教員の面接指導を最低、毎週一回程度は受ける事とする。（主担当教員は学生の実質指導時間が30時間は確保するよう学生と相談の上、指導時間を確保する事とする。）		
第3回	8/8～	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領（研究方法論で配布）に沿った論文の原稿作成、投稿（提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2025年11月21日</b> 、 <b>卒業研究論文本提出（指導教員に表紙+紙媒体で提出）2025年11月28日</b> 、発表までの過程（抄録作成、発表準備、発表進行）を遂行できる（ <b>2024年12月5日発表日予定</b> ）。印刷用原稿締切（2025年12月12日）各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。（チームスファイルに収納予定）その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第4回	9/27			
第5回	10/3～ 11/1			
第6回	11/5～			
第7回	11/29			
第8回	12/2～			
第9回	12/24			
第10回	1/4～			
第11回	1/31			
第12回				
第13回	2/3～			
第14回	2/7			
第15回				
履修条件	学生は必ず、主担当教員と相談の上、研究指導時間を設定して下さい。			
予習・復習	文献・倫理審査作成、予備実験、実験の実施、論文の執筆、発表練習、印刷編集			
テキスト	主担当教員と相談のこと			
参考書・参考資料等	主担当教員と相談のこと			
学生に対する評価	卒業研究執筆要領を厳守にされた卒業論文の締切までに提出のうえ、卒業論文と研究等の学習状況（発表会含む）との結果で基準にそって主担当教員が評価する。			